

農業用ヒートポンプの普及に向けて

三澤 俊哉 (みさわ としや) 一般社団法人農業電化協会

要約 10月になっても暑い日が続き、クールビズのビジネスマンを多く見かけた。この号が発行される頃はどうなっているかわからないが、地球温暖化は年々その厳しさを増しており、温室効果ガスの削減は待たなしである。農林水産分野におけるエネルギーは、約90%が化石燃料であると言われていることから、農林水産業の電化・電動化は喫緊の課題である。その一環として農業用ヒートポンプの普及が求められているが、なぜ普及しないのだろうか。

1. 農業分野における脱炭素化の取り組み

農林水産省は、地球温暖化対策として平成31年4月に「脱炭素化社会に向けた農林水産分野の基本的な考え方」を示し、「農林水産業の脱炭素化」と「農山漁村のRE100」を推進することとした。

また、令和2年3月には「新たな食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、「産業政策」と「地域政策」を車の両輪として推進し、将来にわたって国民生活に不可欠な食料を安定的に供給し、食料自給率の向上と食料安全保障を確立するとしている。

今年5月、農林水産省は、我が国農業が直面する課題解決や世界的な環境・健康を重視する流れを踏まえ、生産から消費までサプライチェーンの各段階において、新たな技術体系の確立とともに更なるイノベーションの創造により、我が国の食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定した(図1)。

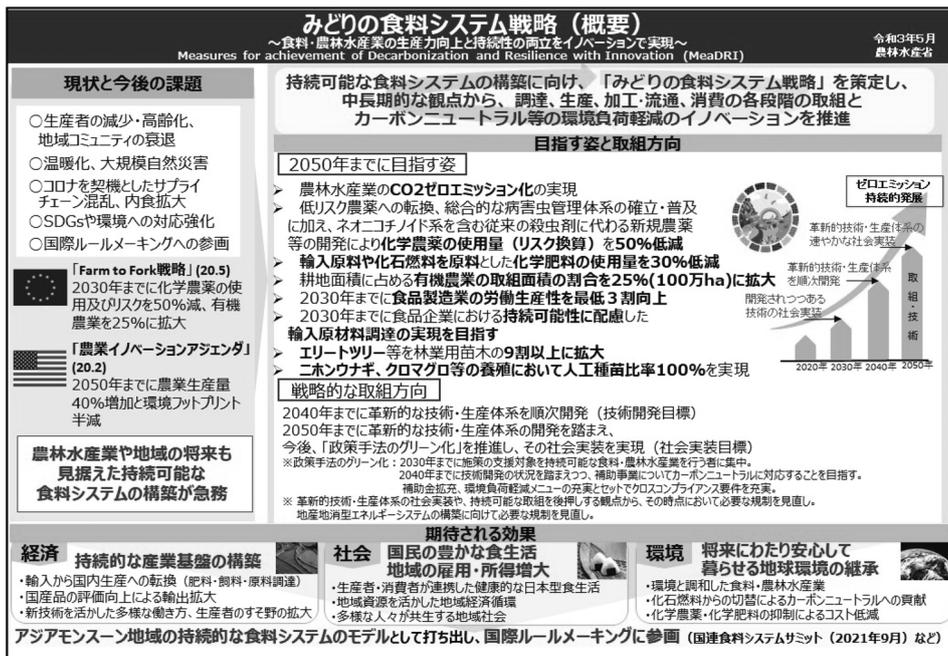


図1

出典: 農林水産省 Web サイト

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>